



企画・制作
国境なき医師団日本
朝日新聞社広告局 **広告特集**

Frontline

国境を超えて命と向き合う

[フロントライン]
Vol.09
December 1, 2013

Feature

困難を越えて 未来を見つめる 2人のストーリー

[インタビュー]

寄付という後方支援が
あるからこそ
最前線の活動が実現できる

寄付が 支えた 未来への一歩

ハイチ大地震で母と祖母を失い、
自らも重傷を負ったミランダちゃん。
手術を繰り返し、リハビリに励んで
未来に向かっていきます。
世界中で、彼女のように
困難と向き合い“生きる”ことに
挑戦する人びとを支えたい——。
国境なき医師団(MSF)の活動を
成り立たせているのは、
そんな市民一人ひとりの
思いのこもった資金です。



©Nicola Vigilanti

Frontline Vol.09 December 1, 2013

金画・制作 国際社会医療団日本 朝日新聞社広告局 広告特集

2010年1月、大地震に襲われたハイチ。当時10歳のミランダちゃんは、崩れた家の下敷きになっていたところを数日後父親に救出されましたが、一緒にいた祖母と母親は亡くなりました。重傷を負った彼女は、右脚を付け根から切断し、左手の手術を何度も受けましたが、手には重い後遺症が。それでも、国境なき医師団(MSF)の仮設テント病院に入院している間、とびきりの笑顔と大人顔負けのおしゃべりで患者たちとスタッフの人気者に。

ある日、彼女はサッカーをしたいと言い出し、ベッドから出て歩行器で歩き始めました。看護師に抱えられ、笑い声を上げてサッカーをしたのです。「ミランダがすごいのは、ほかの子どもたちの間に飛び込んでいくことです」と、彼女に感服するMSFの形成外科医、デリア・ダマッコ。理学療法士のジレ・ラヴィーンも語ります。「ミランダが私に、『パパはね、お腹が空いてるの』と言いました。たくさんの方がそうだ、と答えると、『パパに何か仕事はない?』と。10歳の子が父親の仕事の心配をしていたのです」。



MSFが地震直後に立ち上げたテント病院で、ミランダちゃんは数度の外科手術とリハビリ支援を受けた。

勇気ある彼女はその後、左手を自由に動かせるようにと、自ら形成手術を願い出しました。がれきの下で救出作業の音を聞いたとき、「私はここから出るんだ。だって学校に行かなきゃならないもの」と思ったといいます。大地震から4年近くが経過した今もなお、ハイチでは多くの子どもと大人が困難を越えて未来へ進んでいます。

震災以前から貧困と医療不足が深刻なハイチで活動を行っていたMSFは、地震直後から10ヵ月で約36万人の患者を治療するなど、活動を大幅に拡大。震災後に発生したコレラの対応にも主要な役割を果たしました。しかし、大地震から4年後の今年もコレラは再流行、政府の保健医療体制も正常化からは程遠い状況です。MSFは外科治療や産科ケア、コレラ治療センターの設置など、ハイチで著しく不足する医療の提供を今後も続けていきます。



「将来の夢は看護師さん。MSFの病院にいたとき、働く看護師さんたちを見るのが好きだったから」

—ハイチ大地震で崩れた家の下敷きになり、右脚を切断する重傷を負った少女、ミランダ・ピエール

©Nicola Viglianti



「最初は不安だったけど、いつか治るといって希望は捨てませんでした」

—2年間で2万錠の薬を飲み続けた南アフリカ共和国の大学生、フメザ・ティジール

©Sydelle Willow Smith

小皿に載せられた7錠の薬。フメザさんは、それらを飲み下し、2年間のつらい日課に終止符を打ちました。発病するまで元気に大学生活を送っていた彼女を襲ったのは、通常の治療薬が効かない「薬剤耐性結核(DR-TB)」。その中で最も深刻な超薬剤耐性結核(XDR-TB)にかかり、MSFの治療を受けていました。「この日が来るとは思っていませんでした。XDR-TBに勝ったんです!」。2万錠に上る治療薬の最後の1錠を飲み終え、彼女は喜びの涙を流しました。



多剤耐性結核の治療には少なくとも3種類の薬を毎日20錠以上。補助剤と注射薬の投与も必要だった。

フメザさんはMSFの治療を受ける前に、通常の結核治療を9ヵ月も続けていましたが効果が出ず、XDR-TBであることもわかりませんでした。現地の公的機関が用いている診断ツールでは、診断確定までに時間がかかるためです。XDR-TBの治療率は20%を下回り、診断までに時間がかかった彼女の場合、回復の見込みはさらに低いとみられていました。2年に及ぶ治療は聴覚障害の副作用も起こし、苦しいものでしたが、病気が治ったいま、彼女は将来について語ります。「大学に戻り、就職したいと思っていますが、ビジネス分野でなく、保健医療の分野に進むことも考えています」。

過去の病気と思われがちな結核ですが、世界保健機関(WHO)の報告によれば、2012年の結核による死者数は130万人。新規感染者は860万人に上り、うち300万人が感染を把握されず治療を受けられなかったと見られ、特にDR-TBは4人に3人が診断を受けられていません。原因は、診断・治療費が高額で、途上国では資金不足のため対応が進んでいないこと。MSFは25年にわたって結核に取り組み、2012年には30カ国の結核患者2万9000人と、18カ国のDR-TB患者1780人に治療を提供。高額かつ副作用が強く長期にわたる現在の治療法に代わる薬の開発や、結核対応に必要な国際援助を求めるキャンペーンも展開しています。

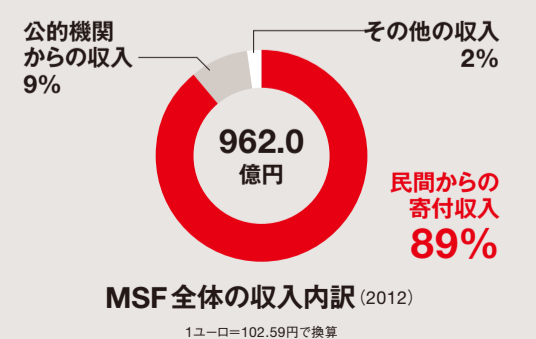
寄付で成り立つ国境なき医師団(MSF)だから 用途の詳細を開示しています

災害や紛争、貧困、国際社会から顧みられない病気など、さまざまな原因で必要な医療が受けられず、命の危機にさらされる人が世界には数多く存在します。MSFはニーズ

を独自の調査で判断し、だれからの干渉も受けずに必要な援助を行うため、資金をできる限り民間からの寄付に頼り、また透明性の高い財務開示を行っています。

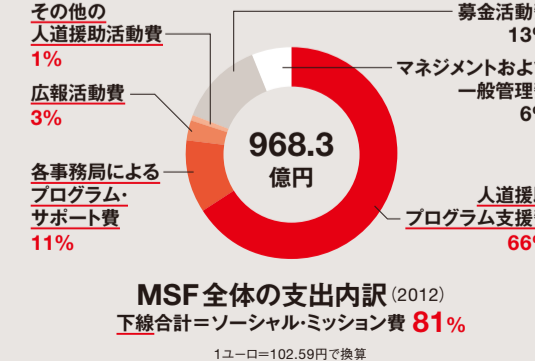
約9割が民間からの寄付

MSFは自ら調査・確認した医療ニーズに基づいて、人種、政治、宗教にかかわらず、いかなる患者に対しても医療を提供しています。だれからも干渉や制限を受けない独立性を確保するためには、資金の面でも中立性が必須で、政府や国際機関からの資金に頼らず、一般個人・法人からの民間寄付による資金が約9割を占めています(MSF日本は現在100%)。2012年は世界全体で460万人以上の個人寄付者と民間企業・団体から支援を得ました。



資金の8割を援助活動へ

MSFの活動には、医療・人道援助活動と、命の危機に瀕した人びとの窮状を世界に訴える証言活動があります。現地で使う人道援助プログラム支援費と事務局でのプログラム・サポート費、証言活動に使う広報活動費を合わせた費用を「ソーシャル・ミッション費」と呼びますが、寄せられた寄付を少しでも多く援助活動に生かすため、この費用の総支出に対する割合を、MSF全体でもMSF日本単独でも、80%を目処としています。



厳密な監査を経て、財務詳細を開示

MSFが毎年発表する『国際版財務報告』には、事務局別、活動国・地域別を含め、全活動の財務状況が開示されています。本報告書に掲載される財務諸表は、国際監査法人であるKPMGおよびERNST & YOUNGが、国際財務報告基準(IFRS)に基づいた共同監査も行っています。また、事務局別の『活動報告書』にも、監査法人による監査を経た各事務局の財務詳細が記載され、ウェブサイトでも閲覧可能です。



Frontline

Vol.09 December 1, 2013

企画・制作
国境なき医師団日本
朝日新聞社広告局

広告特集

学 生時代から途上国の開発援助に関心があり、社会人となって石油開発などの海外ビジネスに携わる間も現地に一番貢献できる方法を模索した末、MSFへの参加を決めました。危機に直面する人びとへ直接援助を行い、国際的な経済や政治の思惑に左右されずに独立・中立・公平の原則を貫く活動ぶりにひかれたからです。

そうしたMSFの姿勢は、2008年の初めての派遣で実感しました。ケニア・ナイロビのスラム地区で行っているHIV/エイズや結核などの治療プログラムに、医療チームを支えるロジスティシャンとして参加したときのことで。現地は大統領選後の混乱状態にあり、略奪や殺人

寄付という後方支援があるからこそ 最前線の活動が実現できる

が起きても当局が介入できないほどの無法地帯でした。しかし、人道主義の精神に基づき、医療ニーズを前提に活動するMSFの診療所にだけは、危害が及ばないことが印象的でした。スタッフの安全を確保しながら人道援助活動を効果的に行うには、現地の人に理解され、受け入れられる必要があります。そのためには民間の方々からの寄付をよりどころとして、資金面でも中立を保つことも大切です。

もう一つ、MSFには、「現場主義」という姿勢もあります。プログラムを実施する際は、医療ニーズの存在を自ら確かめて資金を配分し、必要な体制を整えて医療を行います。紛争地などでは刻々と状況が変化します。首都に置

かれるコーディネーションチームと連携しながらも、現場でしかわからないニーズは現場でスピーディーな判断を下さなければなりません。

今年の4月にエチオピア・アファール州に派遣されたときもそうでした。地政学的側面から孤立している地域で、栄養失調が急増したための緊急介入でしたが、住民の半数以上は遊牧民で実態把握は困難なうえ、人口8万人に対して唯一の保健省の診療所も十分に機能していません。そこで、12の行政区に毎日、移動診療所を設けては重度栄養失調患者の治療を行いました。あるとき、現地の有力者に「水不足の地域の人を移動させたので、そこで診療してほしい」と言われましたが、疑問に思

い、チームの半分を移動先に送って私たちは従来の場所に行くと、患者さんが続々とやって来たのです。現地ですぐにコミュニケーションを取りながら状況分析をしていたからこそ判断を下すことができたケースです。

現場の責任者として苦渋の決断を迫



萩原 健

プログラム責任者 2008年からロジスティシャン/アドミニストレーターとしてMSFに参加。アフリカ、中東、アジア各地で豊富な活動経験を持つ。

られることもあります。エチオピアでは、4ヶ月の活動で最低限、危機的状況を切り抜けました。「あと1ヶ月活動を延長できたら、より確実に引き継げる」という思いはありましたが、資金の限度もあり、現地医療関係者の研修の成果も出ていたため現地に引き継いで終了という判断に至りました。しかし、一次医療が皆無の現状では再び状況が悪化する危険性もあります。今後、緊急介入以外でも、MSFのすべきことがあると考えています。

目下は紛争が激化したシリアへ国際的な関心が高まっています。しかし人道的な危機は他の地域にもあります。できるだけ医療ニーズに応えたいという思いと、限りある活動資金。両者のはざまではしばしば葛藤があるのも事実です。

MSFは寄付によって活動しており、資金を有効に使うことも重要です。エチオピアでは、気温50℃以上の中、スタッフはエアコンもないテントで過ごし、限られた人材で長時間の治療にあたるなど、つねにギリギリのコストで運営しました。「政府から資金援助を受けているのでは?」「国連機関の一つですか」と聞かれることもありますが、MSFは胸を張って「NO」と言えます。独立・中立・公平だから、自らの考えで行動でき、最初のケニアの例のように安全も守られます。お金しか出せなくて申し訳ないという方もいますが、寄付という後方支援をいただいでこそ最前線にいる私たちの活動が実現できるのです。



大統領選で混乱するナイロビのスラムでMSFは負傷者の治療にあたった(2008年)。



エチオピア・アファール州で移動診療を行うMSFチーム(2013年)。

皆様の寄付が活動を支えています

寄付には、毎月定額を寄付する「毎月の寄付」と、その都度寄付する「今回の寄付」があります。寄付金額・お支払い方法は、ご自身でお選びいただけます。国境なき医師団日本(認定NPO法人)への寄付は、**税優遇措置の対象**となります。

あなたの寄付で、できること
3,000円で…外科手術のための麻酔を1回分提供できます。



寄付のお申し込み・資料請求先

[お電話で]

0120-999-199

通話料無料(9:00~19:00/無休)

[インターネットで]

www.msf.or.jp

国境なき医師団

[郵便局(ゆうちょ銀行)で]

振替口座: 00190-6-566468

口座名義: 特定非営利活動法人
国境なき医師団日本

通信欄に「PRS1301」とご記入ください。

「00150-3-880418」と印刷された払込取扱票をお持ちの方は、そちらをご利用いただけます。

公式ウェブサイト、リニューアル!

国境なき医師団(MSF)の公式サイトが新しくなりました。スマートフォンやタブレット端末にも対応しています(下のバーコードからもアクセスできます)。

➔ www.msf.or.jp



Frontline 編集部より

「現地には行けないので、少しでも役に立てば」という支援者の方の手紙を読むたびに、人命を救いたいという思いそのものが「人道援助」だと感じます。寄付という形で多くの方に医療・人道援助に参加いただいている——MSFはその責任を重く捉え、資金の使い道を詳細に公開しています。どうぞ、今号でご紹介した報告書をご覧ください。ご意見・ご感想をお待ちしております。

➔ frontline@tokyo.msf.org

国境なき医師団 / Médecins Sans Frontières(略称MSF)は、1971年にフランスで設立された非営利で国際的な民間の医療・人道援助団体。医師、看護師などの医療従事者とアドミニストレーターなどの非医療従事者、のべ6000人の派遣スタッフが、約3万人の現地スタッフとともに、約70の国と地域で活動を行う(2012年実績)。

MSFは、「独立・中立・公平」を原則とし、人種や政治、宗教にかかわらず無償で医療を提供する。また、援助活動の現場で虐殺や強制移住などの著しい人権侵害や圧倒的な医療の不足を目の当たりにしたとき、医療だけでは人びとの命を救うことができない現状を国際社会に証言している。1999年、ノーベル平和賞受賞。MSF日本は1992年に設立され、2012年までに280人のスタッフを、のべ778回、活動地に派遣。MSF日本の活動資金はすべて、個人を中心とする民間からの寄付金でまかなわれている。

Frontline

[フロントライン]
2013年12月1日発行
第9号

特定非営利活動法人 国境なき医師団日本



Facebook,
twitterでも
発信しています

